



「選書ツアー」の取り組み

酒井紀美子

I. はじめに

愛仁会看護助産専門学校図書室（以下「当室」とする）では、図書の選書は教員と司書が協力して行っている。しかし、学生の声を反映することが不十分であると感じており、学生自らがクラスメートに読んでもらいたい、利用してもらいたい図書を書店で購入する「選書ツアー」を企画した。

この企画は2012年度に第1回を開催し、今年度で第3回を迎える。この事例報告では第3回の選書ツアーを中心に報告する。

II. 概要

この企画は2012年度、第1回より図書委員活動の一つと位置づけている。目的を「学生が図書室を身近に感じ、教員・司書・学生と一緒に、よりよい図書室を作っていく機会とする」と掲げた。そして「図書を選ぶ難しさ、楽しさを感じることで一冊一冊の図書の大切さを知る、学生のニーズに答えることができ図書室利用の促進につなげる、利用マナーの向上が期待できる」を目標とした。まずは図書委員会で参加者を募集し、人数が図書委員だけでは足りない場合は公募の形をとりポスターで募集を行った（図1）。

第3回の2014年は図書委員7名が立候補してくれ司書を入れて8名で「選書ツアー」に出かけることとなった。

訪問書店は第1回、第2回は大阪まで出向いたが、第3回は地元高槻市の書店を訪問することにした。理由は高槻市にも大型書店や専門書

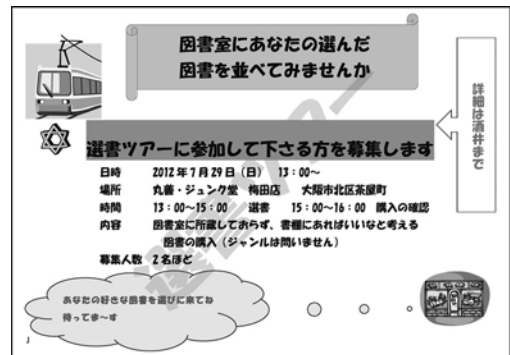


図1 選書ツアー募集ポスター

店があり、当校周辺の書店を巡ることは地元を知る機会にもなる。事前に三カ所の書店の許可をいただき訪問することに決めた。

日程の設定は誰もが参加しやすい日で実施したかったため、夏季休暇に入ってできるだけ早い時期と考え、7月の最終週の平日に実施した。

III. 第3回「選書ツアー」開催

1. まず2014年7月25日(金)に「選書ツアー」事前説明会を実施した。以下はその時に説明した内容である。

日時：2014年7月28日(月)10:00～

集合：阪急高槻市駅 噴水前

場所：高槻市内 書店3カ所

参加者：看護学科2年生3名、1年生4名、計7名（自己紹介）

予算：一人15,000円程度

購入図書：各書店で購入希望図書が決まったら、メンバーに購入するのにふさわしいか確認し、全員の了解があった後、購入。各自購入図書は購入理由がわかるよう



図2 ポップ

に用紙に記入（受入後ポップに記入予定）（図2）。

その他：当日までにある程度購入図書を考えて参加すること。後日、広報に利用したいため、写真を撮る許可を得ること

2. 選書基準

- ・学習、実習に必要な図書
- ・クラスメートに薦めたい図書で看護学校図書室にふさわしい図書
- ・図書室に所蔵していない図書

選書対象外

- ・視聴覚資料
- ・漫画、芸能人の写真集、娯楽的要素の多い図書
- ・旅行本、ダイエット本、ファッション系
- ・ライトノベル

3. 「選書ツアー」の様子（2014年度）

阪急高槻市駅集合、1件目は医学、看護学専門書店の神陵文庫大阪医科大店を訪問した。そんなにスペースは狭くないが、すべてが医学、看護学書であり、医大店への訪問も初めての学生ばかりだったので、とても熱心に選書をしていた。また、ここは学生は10%オフで購入できるので、専門書はここで購入しておこうと計画をたてており、学生は自分たちが考えてきた図書をさがしていた。1年生は解剖生理学、2年生は実習に役立つ図書を中心に選書していた（図3）。

2件目はJR高槻駅前、グリーンプラザに入っているキャップ書店（現在はジュンク堂書店）



図3 選書作業1



図4 選書作業2

を訪問した。ここは売り場面積が広くて買いやすい書店であった。ここでも、やはり看護系の図書、医学、心理学など神陵文庫大阪医科大店になかった図書を選書していた（図4）。

3件目はJR高槻駅前の西武デパートの中にある紀伊國屋書店高槻店を訪問した。ここが最後になるので、自分たちの予算もあとどれくらい残っているか把握しながらの選書であった。この書店にもたくさんの興味をひく図書があり、さあどうしようかと時間をかけて選書をした（図5）。

やっと、全員が購入し終え、学校に到着したのは13時になっていたが、どの学生も一度に複



図5 選書作業3



図6 展示コーナー1

数冊の本を買ったのは初めてだったようで充実した時間となったようだ。

4. 購入結果

今回の購入図書は42冊で、内訳は
医学系16冊、看護系13冊、心理学3冊、
問題集8冊、文学1冊、新書1冊
であった。

5. 受入後の展示

選書ツアー終了後、購入した図書を夏季休暇中に図書室に受入し、その後、図書室前の掲示板に新着図書の広報を行った。通常の図書は新着の棚に配架するが、選書ツアーの図書は学生が書いた選書理由をポップにして、図書室に入ってすぐの展示コーナーに別置した。また、iPadで作成した当日の模様などを流して広報に利用したり、9月の始業式の日に関書委員から学生にアナウンスしてもらうなど利用を促した(図6、7)。

IV. 購入図書の紹介

購入した図書で貸出が多かった人気の図書の購入理由をポップにし紹介する。

『自分の中に毒を持って』

自分のことが好きになれない、どう生きていけばいいのかわからない。そんな人が読んだら自分の中で何かが変わってくるかもしれ



図7 展示コーナー2

ない。

『男の育児 女の育児』

育児論や子育て論にありがちな『偏り』を捨て、きちんとした研究成果、データを論拠として育児を観ている。子育て、育児支援を考えている人は一度読んでほしい。

『それでお金を買いますか』

単に善悪では判断できないことが増えてきた世界で、思考をとめないためにオススメの一冊。

『事故を防ぐ看護技術』

看護技術を用いる際注意すべき点と失敗したときの対処が解りやすい。

『イメカラ循環器』

イラストが多く、イメージしながら理解することができる。『病気がみえる』の内容がさらに見えるようになる。

『ナースのためのマナー & 接遇術』

実習前ちょっとした疑問があるときにも役にたつマナー。看護学生には必読！

『女子の人間関係』

看護師は学校も職場も女性が圧倒的に多く人間関係のヒントになるから。

『いい人生だったと言える 10 の習慣』

患者の死をみつめなければならぬ看護師こそ自分の人生をいいものにしなければならぬと感じたので。

『みるみる身につくバイタルサイン』

事例とチャートで観察結果をどうアセスメントし、どう伝えたらよいかまでわかるので、実習でも役立つと思ったから。

『グリーンケア入門』

親しい人を亡くされた患者さんと接する機会があった時などに参考にしてほしい本。

『看護婦ががんになって』

がん患者さんの気持ちが看護師の視点から書かれていてわかりやすい。

V. 「選書ツアー」の感想

1. 学生

- ・自分の図書でなく学校の図書を選ぶので緊張した。
- ・たくさん図書を買う経験がなかったので楽しかったが、反対にどうセレクトしたらいいか、迷った。
- ・図書を選ぶ作業がこんなに大変と思わなかった。
- ・自分では買えない高い図書を買うことができたが、大切に読まないといけなと感じた。
- ・参加したいが毎回日程があわず残念、年に2回あればいいと思う。
- ・クラスメートが選書した図書を利用するのはとても楽しみで、自分は参加しなくても図書

室に行く機会が増えた。

- ・図書委員ではなく最初から参加者を公募してほしい。

2. 教員

- ・学生の日線で選書した図書をみることでどう内容で教授したらいいかのヒントになり授業に活用できる。
- ・色々な分野の図書を選書しており、学生の興味を知ることができる。

VI. 「選書ツアー」の評価

- ・学生の求めている図書を知ることができた。
- ・「選書ツアー」コーナー閲覧目的に来室する学生が増え、図書室利用の活性化につながった。
- ・多岐の分野にわたって選書されており、参加学生の取り組みの姿勢に触れ、司書のモチベーション維持につながった。

VII. 今後の課題

- ・当日購入した図書が所蔵していないかの判断ができるか、回を重ねるごとに難しくなっていくと感じた。
- ・購入希望の図書が品切れの場合の対応が必要。
- ・購入した図書が利用されなかったという残念な結果にならないように、利用状況を把握して評価し、次につなげていくことが必要。
- ・図書室を利用しない、図書が苦手という学生に参加してもらえぬ工夫が必要。

VIII. 終わりに

「選書ツアー」の活動を通して学生、教員に図書室を身近に感じてもらえたと自負している。しかし、課題もありその改善への努力と「選書ツアー」の充実、継続していくことで他の図書室のサービスも発展させていければと考えている。

謝 辞

最後になりましたが、「選書ツアー」の活動を発表する機会を与えてくださいました近畿病院図書室協議会研修部の皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。